

山田みやこの活動報告

令和8年4月22日（水）

山口県の不登校対策についての会派視察

山口県山口市立大内中学校の現地視察

山口県SURサポート教員アドバイザー 平川中教諭 中川真治先生

中川先生は大内中にて不登校の生徒を学校へ復帰するステップアップルーム（SUR）を設置、実践され、現在は平川中に赴任し同様にSURを担当している。



- ①家庭とつながる
- ②指示から支えるに、魅力ある場所にする
- ③自分で決める、自分で目標をもって進む、
自分を責めない、悩みを抱え込まず一緒に考える
- ④遅刻・早退はつけない
以上4点を重視

子どもにとって、大人にとって魅力ある居場所としての学校に、自分らしさを発揮、つながりを実感、成長を確認できる

◆R8年度大内中ステップアップルーム（SUR）の運用

- ・長期欠席生徒が再登校しようとするときの対応
- ・集団不適応により学校・学級生活が困難となった生徒への対応
- ・ステップアップルームは様々な状態の生徒を、学年・学級に戻ることができるように対応する場
- ・年度初めから開室するが、生徒の転機を図るため自教室、行事への参加を促す
- ・ステップアップルームの利用期間は原則1年。カウンセリングを受けることを基本とする
- ・学級担任と学期ごとに目標や過ごし方について確認する
- ・自分の過ごし方を決める
- ・学期末には振り返りシートで学期の振り返りをする
- ・学習は、やまぐちっ子学習プリントの活用・リモート授業・AIドリル・教科の自主学習・授業への参加

SUR設置校で揃えたい仕組み

1. 校内共有ルートの明確化
2. 連携の仕組み化（小中学校＋幼保小）
3. 学習評価の共通理解（校内で最低限の合意を作る）



※今回の視察はあくまでも学校復帰の取り組み

先生方の指示から支える場としての居場所づくりの努力と、いつも一緒に考えるというかわりのあたたかさを十分感じ取れた。
また、校内の全教職員のSURを「特定担当の場」にしない理解の推進は大変必要なことと思われた。